

「韓国語研修 参加報告書」

京都大学文学部3年 小池和輝

私は大学の授業で学んでいる韓国語を実際に使ってみたいという目的で本プログラムに参加した。今回の派遣を通じて感じたのは、大学で授業を受けているだけで外国語を習得できるという考えは大きな間違いだということだ。自主的に外国語を運用する機会を持ち、語彙・表現を増やすための、惜しみない努力が必要だと痛感した。3週間というのは、外国語を勉強する期間として考えるならばあまりにも短い期間だ。しかし、自分の実力に危機感を覚え、もっともっとがむしゃらに勉強しなければならないと思っただけでも、今回の派遣は私にとって非常に有益なものだといえる。

国際理解という観点からは、領土問題などを敏感な問題だといって避けることをせず、むしろ日韓互いの立場を尊重し合って議論する姿勢が今まさに求められているのだと感じた。自分がどんなことを発言してもよく、また発言してはいけないのか。さらに、自分の発言がどんな根拠に基づいているのかを常に考えながら、自分の考えを相手に正確に伝えなければならない。そのためには、平素から主体的に必要な情報を取り入れる癖をつけておく必要がある。韓国学生との交流や刑務所博物館の訪問などを通じて、日本で得られる情報と韓国で得られる情報には、大きな差異があるとわかり、それが原因で日韓の歴史認識問題における対話が困難だと感じた。国際的に理解しあうために、まず双方の考え方を「知る」ことから始める必要がある。

本プログラムでは、平日の午前中に語学の授業があるだけでなく、週に2回程度、韓国文化・社会に関する講義を聞いた。講師の方々の熱のこもったお話もあって、私はすべての内容に興味を惹かれずにはいられなかった。ただ語学教育院でお互いに韓国語がおぼつかないクラスメイト同士で勉強するだけにとどまらず、ソウル大学の韓国人講師が自分たちの国の政治・社会・歴史についてのどのような見解を持っているのかを知ることができる、というのが本プログラムの最大の魅力だと私は思う。

進路への影響については、今回の派遣後、長期間の韓国留学をも選択肢の一つとして考えるようになり、日韓交流に携わるような職に就きたいという気持ちが強くなった。まだ漠然と考えているだけで具体的にどんなことをやりたいか決まっていないが、今回のソウル大学韓国語研修での経験を忘れずに、帰国後も留学生との言語交換を通じて、自分に足りない知識や経験を補充するつもりである。